

受託研究 輪島市上時国家文書・時国家文書調査業務

期間：2022 年 4 月 29 日～2023 年 3 月 24 日

〔所員〕 関口博巨 〔客員研究員〕 泉 雅博

奥能登時国家文書の調査

関口 博巨

研究目的

上時国家文書・時国家文書調査業務は、「小西漆器店文書の研究」から継続する輪島市からの受託研究である。当研究所では、財団法人時代の 1952 年から 2000 年頃まで、時国健太郎家文書（石川県指定文化財「上時国家文書」）と時国信弘家文書（輪島市指定文化財「時国家文書」）の調査・研究を断続的に行ってきたが、近年の輪島市の調査によって、未公開の時国家文書や指定漏れの上時国家文書があることが確認された。これを受けて、当研究所では、両家文書目録の補充や両文書群の評価書作成などの古文書調査事業を受託することとなった。

上時国家文書と時国家文書

輪島市を流れる町野川の近くに 2 軒の時国家がある。ここでは輪島市教育委員会での呼び方に従って、町野川の上流にある時国家を「上時国家」、下流にある時国家を「時国家」と称している。中世の名主の系譜を引く両時国家は、種々の事情から寛永 11 年（1634）に、土方家領時国家（上時



写真 1 輪島市の担当者との打ち合わせ

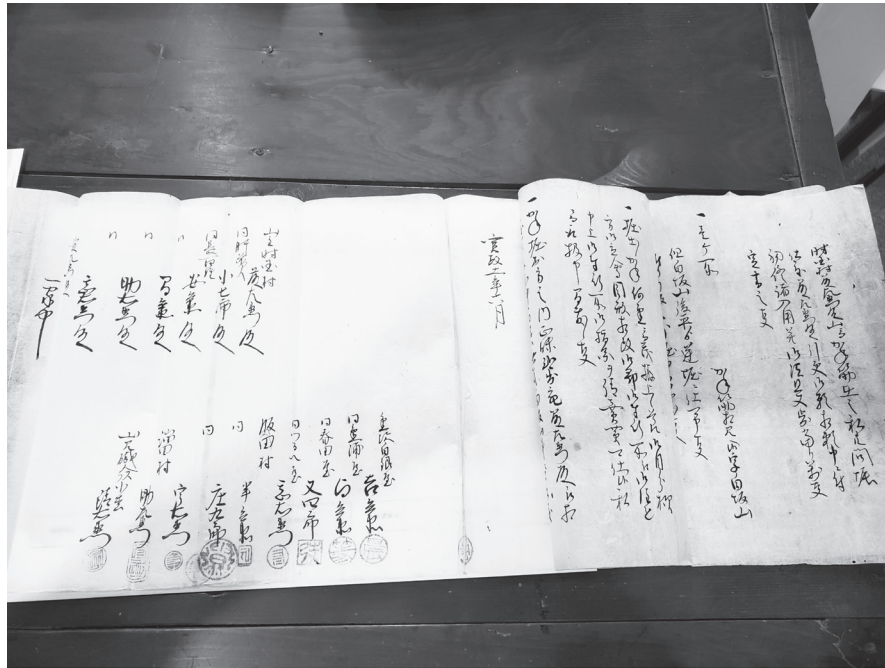


写真2 時国信弘家の近世文書

国家)と前田家領時国家(時国家)とに分立し現在にいたっている。両家の住宅はどちらも重要文化財に指定されている。両家には中世以来の古文書が伝来しており、1万点以上に及ぶ上時国家文書のうち8,572点は石川県指定文化財に指定されている。時国家文書は全容が明らかになっていないが、現在のところ7,859点の古文書が確認されている。

今回の受託研究では、上時国家文書のうち県指定から漏れた古文書の確認作業と評価書の作成、時国家文書の評価書の作成にあたった。



写真3 箱詰めされた時国健太郎家文書(一部)

常民研による調査の経緯と期待される研究成果

両時国家の古文書は長いこと「門外不出」とされてきた。門外不出の扉を開いたのは、常民研の創始者渋沢敬三であった。以来、宮本常一を中心とした九学会連合の総合調査(財団法人時代)や網野善彦を代表とする「奥能登時国家の総合的研究」(神奈川大学招致後)などが、両家文書を調査・研究の対象としてきた。神大常民研の総合的研究では、近世の両時国家が百姓身分でありながら北前船船主として大規模な日本海交易を展開していたことなどを解明した。それは、百姓=農民という日本史の常識をひっくり返すものであった。今次の受託研究においても、輪島市はもとより学界全体に貢献しうる発見が期待される。

■ 2022年度の活動

○上時国家文書・時国家文書調査 輪島市 2022年9月9日～12日 関口博巨・泉雅博、日座久美子・出口夏子(院生)